

「人生100年時代」について

世界的にも高齢化は進行していてイギリスでは80年後は2人に1人が100才だと学者が言い出してから人生100年時代と具体的に言われるようになりました。

日本では2017年頃より「人生100年時代」と言われるようになりましたが、小泉進次郎らが言出して有名になった言葉です。同年に首相官邸にも「人生100年時代戦略本部」が立ち上がったほどです。

2人に1人とは言わないまでも想像できないくらい100才以上が多くなることは間違いありません。見方を変えれば介護する側もされる側も経済成長にも貢献して、介護人材に極めて重要な期待が寄せられるということでもあります。経済成長に貢献するのはモノづくりだけではありません。

「人生100年時代」は100年後を見据えて言っている言葉ですが、現在はどのようなのでしょうか。

2018年の平均寿命は女性87.32才、香港に続いて第2位。男性は81.25才、香港・スイスに続いて第3位で、世界1位ではなくなりました（今年発表された）。

2060年には男性は84.19才に、女性は90.93才になるといいます（国の推計）。2065年の日本の総人口は今の70%になりますが75歳以上の後期高齢者の割合は26%、実数は現在の1.2倍を維持して減りません。4人に1人が後期高齢者です。

2100年の日本人平均寿命は女性97才、男性91才です（国連推計）。

日本人の平均寿命は3大死因だった癌・心臓・脳卒中による死がゼロになっても今後6才位しか延びないとも言われていますが、一方で肉体年齢は昭和の時代と比べると暦年齢から現在でも15年若返っていると言われる。そして介護の世話にならない健康寿命は平均寿命より約10年少ない状況で国はなるべく縮めようとしているところでは。

従って、後期高齢者になっても元気な人もいれば老年症候群に陥る人もいるということで暦年齢からは区分けできないということになります。「生涯現役」の社会づくり、と言われるゆえんです。

私たち介護のプロたちは、介護の在り方を常日頃工夫している訳ですが、元気な後期高齢者も巻き込んだ介護人材づくりにも貢献するような工夫もあるという時代になりました。

私たち老健の役割はご家族から丸投げされて全く無関係の場所で介護をする訳ではありません。ご家族の参加も含めたケアプランを念頭に置きながら介護業務にあたる役割があります。それが老健の特徴でもあります。

元気な高齢者の協力も頂きながらの業務計画を練るのも、これからの人生100年時代を見据えての介護のより良い在り方を追求する方法の一つだと思います。

老人保健施設一羊館の理念 利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。

